

古田嘉章氏文書 (3) 概要

- 1: 文書群番号 091006-2
- 2: 文書群名 古田嘉章氏文書 (3)
- 3: 出所 古田嘉章家
- 4: 家業・役職等 近世：時友村庄屋
近代：時友村戸長
- 5: 地名 摂津国武庫郡時友村／兵庫県武庫郡時友村／武庫郡武庫村時友／尼崎市時友／尼崎市武庫之荘9丁目
- 6: 行政区分 幕府領／尼崎藩領／兵庫県第8区／常吉組戸長役場／武庫村／尼崎市
- 7: 歴史 時友は武庫地区の大字で、市城北西部に位置する。史料上の初見は応永29年(1422)で、「野間庄内時友名」とある。隣村の友行も同荘の名田であり、中世から近世にかけて野間荘が野間・友行・時友の3村に分離していったものと考えられる。村高は「慶長十年摂津国絵図」で268.92石、「元禄郷帳」「天保郷帳」では307.973石である。寛文9年(1669)頃の青山氏領地調では家数40・人数222、「天明九年御巡見様御通行御用之留帳」では、家数45・人数233となっている。古田家は近世には時友村庄屋を、近代には時友村戸長を務めた家である。
- 8: 伝来 平成3年(1991)7月に古田順規氏より古田嘉章氏文書(2)とともに借用、8年10月～9年3月に整理・目録作成を完了し、17年3月古田氏より史料館へ寄託された。
- 9: 史料入手先 古田順規氏(原蔵者子息)
- 10: 点数 215点(目録件数215件)
- 11: 年代 延享4年(1747)～昭和17年(1942)
- 12: 構造と内容 本史料群は、全点書籍から構成される。思想・宗教関係や歴史関係が多く、年代別では文政期(1818～30年)から明治10年代にかけての書籍が目立つ。また漢籍の占める割合が高く(文書群の7割)、四書五経や『荘子』『荀子』『戦国策』をはじめとする思想関係、史書(『資治通鑑』『国語』など)、言語関係(『康熙字典』『方言』など)、文学関係(『文選』など)と多岐にわたる。一方、和書・和本の特徴としては、教養書と実用書の比重が高い。また、婦人や女性が起居動作・礼儀作法・教養を習得するための書籍も散見する。
- 13: 関連史料 古田嘉章氏文書(1)(2)
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 近藤浩二